

ことばの遅れとは？

須藤美香¹⁾

I. はじめに

本講座は令和4年度の公開講座として動画配信されたものである。4歳頃までの子どもを想定し、ことばの遅れが気になった時に知っておくとよい基本的な内容について説明を行った。

II. 講座の概要

1. ことばとは

ことばには大きく「話す」と「聞いて理解する」という二つの側面がある。この力が十分に発揮されるためには、ことばの発達の土台となる「人と関わる力」が育っていることが重要である。

例えば、赤ちゃんは生まれながらにして、人や人の声に対する興味を持っており、生後5、6ヵ月から聞かれる喃語は人に向けて発せられる。このように、人と関わる力の基礎は、ことばを話すようになる以前から徐々に培われている。

2. ことばの発達の目安

母子手帳や育児書に示されている、ことばの発達の目安が参考になる。ことばの発達は個人差が非常に大きいことが特徴であるものの、それらの目安と1年程度の開きがある場合には、後述する専門機関で相談する方がよい。

3. ことばの発達に関わる要因

聞こえ、人と関わる力、認知能力は、ことばの発達と深く関連する。これらに困難や苦しさがあると、ことばの二つの側面が遅れる可能性が高くなる。

(1) 聞こえ：赤ちゃんは周りの大人が話していることばを聞くことによって、ことばを覚えていく。周りのことばが明瞭に聞こえないと、ことばを覚えるのが遅くなったり、なかなか話し始めない場合がある。日常生活では、

後ろから小さな声で呼ぶと振り向くか、小さな音が聞こえているか、テレビや音楽に近づいて聞いていないかなどが観察ポイントである。

(2) 人と関わる力：赤ちゃんは人と関わる力を使って、周りの大人とやりとりしながらことばを覚えていく。日常生活では、個人差はあるものの、困っている時や痛い思いをした時に大人を頼るか、よく笑うか、誰かと遊ぶことを好むかなどに留意するとよい。

(3) 認知能力：日常生活では、生活習慣が自立に向かっているかどうかによって表れやすい。何度教えても教えたことが積み重なっていかない場合、生活の中で周りの行為に注目し、じっくり観察したり、その行為を真似ることに苦しさがある、あるいは自分でやりたいという意欲が湧かないなどの理由が考えられる。

4. ことばが遅れているかもしれない気になった時

観察しやすい「話していることばの数」や「話す文の長さ」だけではなく、聞いて理解する力、人と関わる力がバランスよく育っていることが大切である。そして、ことばが遅れているかどうかは、ことば以外の発達の程度を含めて総合的に判断される。気になることがある場合は、市町村役場や保健センター、乳幼児健診、かかりつけの小児科などで、まずは相談してみるとよい。

ことばは、市販の絵カードを使ったり、親から教え込まれて覚えるのではない。日常で様々な経験を繰り返す中で、ことば(音声)とそれが指し示す物や状況、感覚・感情が結びついていくことによる。そこで普段の生活では、丁寧な関わりやことばがけをすることが望ましい。人と関わる遊び、家事のお手伝いなどを積極的に行い、子どもが興味を持ってやっていること、見ている物に対して、大人がことばを添えたり、代弁してあげるとよい。また、食事や睡眠をしっかりすることは日中の活力となる。ことばを含めた様々な学習の準備を整えるために、特に大事にしたい。

以上

1) 弘前医療福祉大学保健学部 医療技術学科 言語聴覚学専攻 (〒036-8102 青森県弘前市小比内3丁目18-1)
(令和4年10月3日～令和5年2月28日 本学HPで動画配信)